

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	当院における性腺外胚細胞腫瘍の臨床的検討
	研究目的	胚細胞性腫瘍は 15-35 歳の男性で最も多い悪性腫瘍であり、胚細胞性腫瘍のうち 5%は精巣以外（性腺外）の原発である。性腺外胚細胞性腫瘍は縦隔と後腹膜に多いとされる。治療は化学療法が第一選択であり、手術は腫瘍マーカーが正常化し残存病変がある場合に行われ、癌細胞の残存を認めないことが予後良好因子、癌細胞が確認されれば化学療法の追加が検討される。近年多剤併用化学療法などの発展により、その治療成績は向上したが、いまだ難治性の経過をたどる症例は存在し、検討課題が残されている。今回我々は当院の 1994 年 2 月から 2018 年 4 月までの性腺外胚細胞腫瘍症例を対象とし、予後因子として組織型、原発部位、転移の有無、肺以外の転移の有無、年齢、治療前腫瘍マーカー値、IGCCC について臨床的検討を行った。
	研究期間	西暦 2018 年 6 月 1 日 ~ 西暦 2019 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 （チェック[X]が入った項目を利用します）		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	堤 壮吾
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	泌尿器科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし